

新たな外来種の侵入・拡散防止に関するWGの検討結果報告

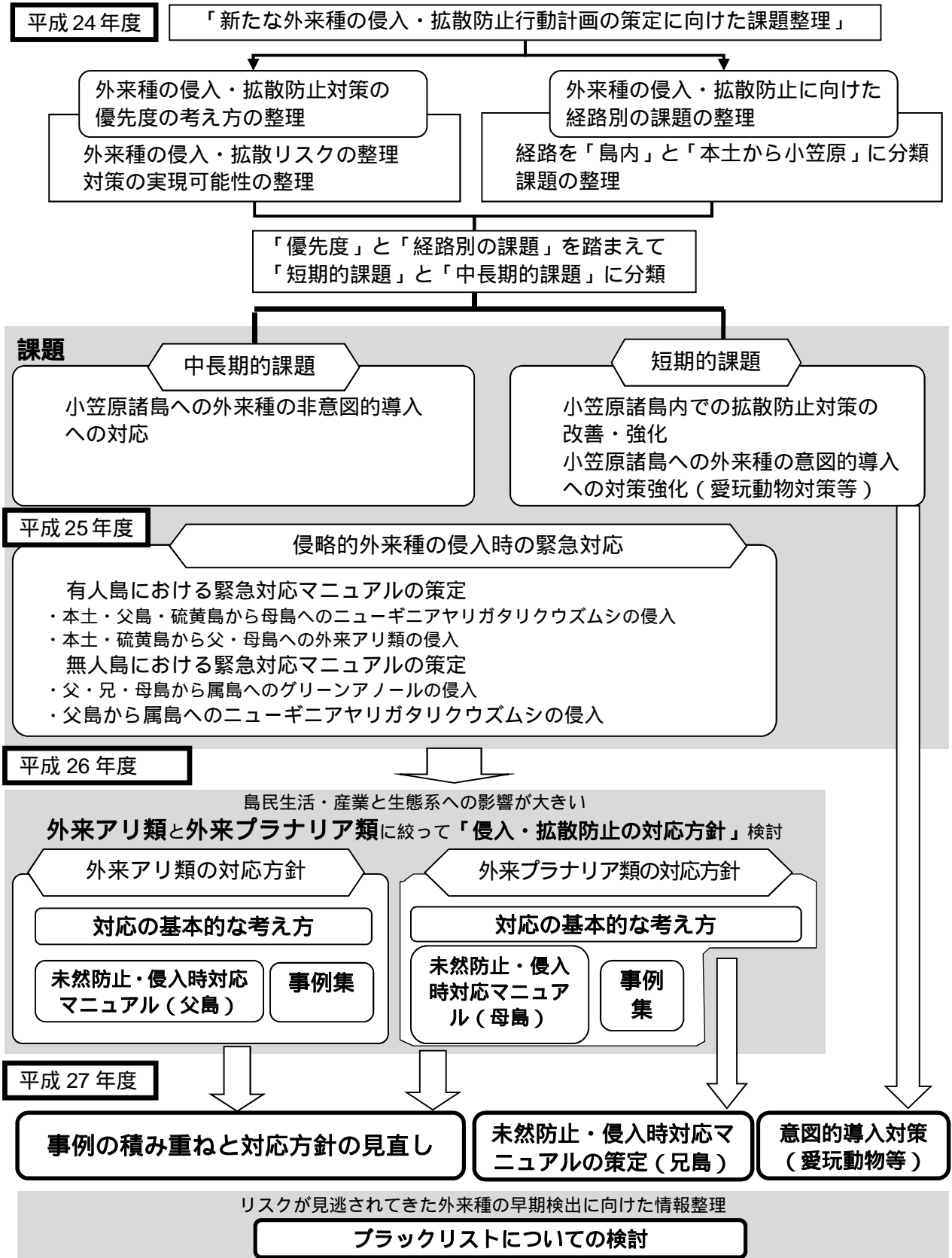
1. 背景・目的

- ・小笠原諸島の世界自然遺産登録の際の世界遺産委員会における決議事項として、新たな外来種の侵入や拡散の防止を進めることが要請されたことを受け、平成24年8月に科学委員会の下に、「新たな外来種の侵入・拡散防止に関するワーキンググループ」を設置して議論を進めてきた。
- ・本ワーキンググループでは、新たな外来種の侵入・拡散防止に関する様々な課題の未実施事項の推進と遺産登録後に新たに生じた様々なリスクについて、外来種の侵入・拡散の未然防止、侵入時の緊急対応のあり方に焦点を当てて議論をすすめてきた。
- ・平成24年度に「新たな外来種の侵入・拡散防止行動計画の策定に向けた課題整理」をまとめ、平成25年度には侵略的外来種の侵入時の緊急対応のあり方について議論を進めた。
- ・これらの議論を踏まえ、平成26年度より「外来アリ類の侵入・拡散防止に関する対応方針」「外来プラナリア類の侵入・拡散防止に関する対応方針」を作成・更新するとともに、これらの対応方針に基づく取組の試行実績を積み重ねている。

2. ワーキンググループの概要

| 名称 | 新たな外来種の侵入・拡散防止に関するワーキンググループ |
|------------------------------|--|
| 設置期間 | ・平成24年8月～ (平成24年度(計2回)、平成25年度(計2回)、平成26年度(計3回)、平成27年度(計3回開催予定)) |
| 管理機関 | 環境省、林野庁、東京都、小笠原村 |
| メンバー (★:座長) (敬称略・五十音順) | 磯崎 博司 上智大学大学院地球環境学研究科客員教授(環境法) 加藤 英寿 首都大学東京 理工学研究科 助教(植物) 五箇 公一 国立環境研究所 主席研究員(昆虫類・外来種リスク評価) 千葉 聡 東北大学 東北アジア研究センター 教授(陸産貝類) ★吉田 正人 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教授(保全制度) 【アドバイザー】 大林 隆司 東京都小笠原支庁産業課 小笠原亜熱帯農業センター主任 *必要に応じ関連分野の専門家をアドバイザーとして追加する予定 |

3. 検討の経緯



3.平成 27 年度の検討結果

1) 外来アリ類と外来プラナリア類の対応方針の作成

侵略的外来生物のうち、侵入リスクが高く、侵入時における影響が特に大きいと考えられる外来アリ類と外来プラナリア類について平成 26 年度に作成された「外来アリ類の侵入・拡散防止に関する対応方針」「外来プラナリア類の侵入・拡散防止に関する対応方針」(下表参照)の更新作業中。

| | |
|----|---|
| 名称 | 侵略的外来種の侵入・拡散防止に関する対応方針* |
| 概要 | 小笠原諸島における侵略的外来種の侵入による被害を防ぐことを目的として、侵略的外来種の未然防止と侵入時の対応についての、基本的な考え方、具体の対応手法、対応事例等を取りまとめたもの。 |
| 構成 | 第 1 部 侵略的外来種の対応の基本的な考え方 第 2 部 侵略的外来種の対応手法行動マニュアル【未然防止編】 第 3 部 侵略的外来種の対応手法行動マニュアル【侵入時対応編】 第 4 部 参考資料(対応事例等) |

*侵略的外来種(外来アリ類、外来プラナリア類、グリーンアノール)の種群ごとに「侵入・拡散防止に関する対応方針」を作成する。

2) 小笠原版ブラックリスト(動物編)の作成

掲載種の侵入の未然防止及び侵入時の早期発見のための注意喚起を促すものとして、平成 27 年度第 1 回 WG において原案を示し、第 2 回 WG において、小笠原に侵入した場合の予想される被害の大きさ、侵入する可能性、人体や経済・産業への影響を選定の基準として、絞り込みを行った。

今後、掲載種の生態・分布情報を注視し、導入の防止を図るとともに、専門家、自然ガイド及び行政関係者が、新たに島内に侵入した種の監視のために用い、リスト掲載種の早期の発見及び対応に役立てることを想定し、リストの普及を図る。

3) ツヤオオズアリ等への対応

平成 26 年度第 3 回 WG で危険性が指摘されたツヤオオズアリに関し、島ごとの侵入状況及び対応方針を整理した。また、母島において分布調査を行うとともに駆除の試行を行い、ベイト剤を使用した駆除方法の効果とベイト剤の環境影響を評価した。次回 WG までに地域連絡会議下部WG で話し合い、春に対策が開始できる方向性での検討が事務局に対し要請された。

平成 27 年度の硫黄島訪島事業で硫黄島の沖に停泊したおがさわら丸に、アカカミアリの飛来が確認されたことから、平成 28 年度事業までに、対策案を検討する。

4) 愛玩動物に関する検討

イヌ、ネコ以外の愛玩動物の野外への放逐による定着の可能性や生態系への影響に関する情報、適正な飼養、管理手法に関する情報の集約・整理、指導・普及に努めることが求められていたことから、地域課題 WG を設置し、対策の基本的考え方や、愛玩動物に関するブラックリスト、登

録制・マイクロチップの挿入といった管理手法等について検討を行った。

4. 今後の取組の方向性

科学的な検討が進み、外来アリ類と外来プラナリア類に関してはマニュアルを含む対応方針が作成されているが、地域の関係者間で対策に対する社会的合意が十分ではない。地域の関係者間で、目指すべき小笠原諸島の将来像を共有し、侵略的外来種への対応に関し社会的合意の形成を図るため、地域課題 WG において下記の課題に関する議論を継続する間、科学委員会下部 WG としての本 WG は休止する。

なお、新たな外来種の侵入・拡散防止に係る科学的な議論の一部は、遺産の管理やあり方全体に係る議論でもあることから、平成 28 年度以降は別途立ち上げ予定の「管理計画・アクションプラン改定 WG」や科学委員会本会においても議論する。

1) 侵略的外来種の未然防止と侵入時対応マニュアルの地域における運用体制づくり

外来アリ類と外来プラナリア類の侵入・拡散防止の対応方針について、地域の理解、協力を得た上で実効性のある対策が取れるよう、地域課題検討WG等の場で島内の関係者をまじえた議論を行いつつ、地域への周知及び試行的運用を行う。

また、侵入・拡散防止の対応方針については、試行的運用の結果を事例集として蓄積すると共に、試行的運用や地域課題検討WG等で得られた情報や課題を元に改訂を繰り返すことで、より現地の実情に合った実効性のあるものにしていく。

2) 愛玩動物に関する基本的考え方の取りまとめ

地域課題 WG において「小笠原村における愛玩動物対策の基本的考え方」を取りまとめ、それをふまえて、行政の具体的施策を検討していく。

3) 水際対策の検討

国内の他地域や外国から父・母島への物資の輸送に伴う意図的・非意図的導入の未然防止のための水際対策の検討には、「対策技術の確立」、「実施体制の整備」、「制度的な裏付け」、「社会的合意」が必要である。これらの中長期的課題は、外来アリ類と外来プラナリア類について先行的に検討を行うことで、検討手順の整理や必要な情報・知見の蓄積を図り、関係機関による対策の実施に向けた道筋を示す。